



# すまいる



寒風吹きすさぶ候となりました。保護者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。  
今回は、行き詰まり感を覚え困っている子どもへの関わり方について考えてみましょう。



## 自己決定をし、できる体験を増やそう！

“行き詰まり感”とは、子どもが  
「もう、どうしていいかわからない。」  
と、立ち往生した状態のことです。子ども自身も、なぜなのか  
はっきりわからないことがあります。  
そのようなときに、強く怒って言い聞かせたり、こちらが折  
れて子どもの言いなりになったりするの、良い関わり方とは  
いえません。



そこで、**提案・交渉型アプローチ** です。

『提案・交渉型アプローチ』とは、学習や対人関係に行き詰まり感の強い子ども  
に対して、いくつかの選択肢を提案し、交渉していくことです。

※参考文献『提案・交渉型アプローチ 叱らないけど譲らない支援』 武田鉄郎 編著



### ポイント①

#### 子どもの行き詰まり感を理解し、共感する

子どもが何かを嫌がる、拒むときには、その子どもなりの理由が  
あります。(子ども自身、理由を言葉にできないこともあります。)  
まずは、理解と共感し、信頼関係を作ります。



### ポイント②

#### 現状を考える

子どもが何ができて、何ができないかを考えます。行き詰まり感を  
覚えがちな子どもたちは、物事に対する考え方が、1か100か  
と極端な傾向が見られます。



### ポイント③

#### 提案交渉は親が進める

「これならどう？」と提案交渉する中身は、子どもの思いに寄り添  
うことが大切です。親がやらせたいことだけを提案することはい  
けません。ただし、自己決定をするのは子どもです。



子どもが自己決定した内容であっても、周囲のサポートがなければ  
うまくいかないこともあるでしょう。失敗したり、成功したり繰り返  
す中で、自尊感情などの内面が育っていくことと思います。

子どもたちのより良い育ちを、  
学校・家庭・地域でサポートしていきましょう。

“みんなちがって みんないい” ※出典「私と小鳥と鈴と」 金子みすゞ